

環境報告書 2025 年度

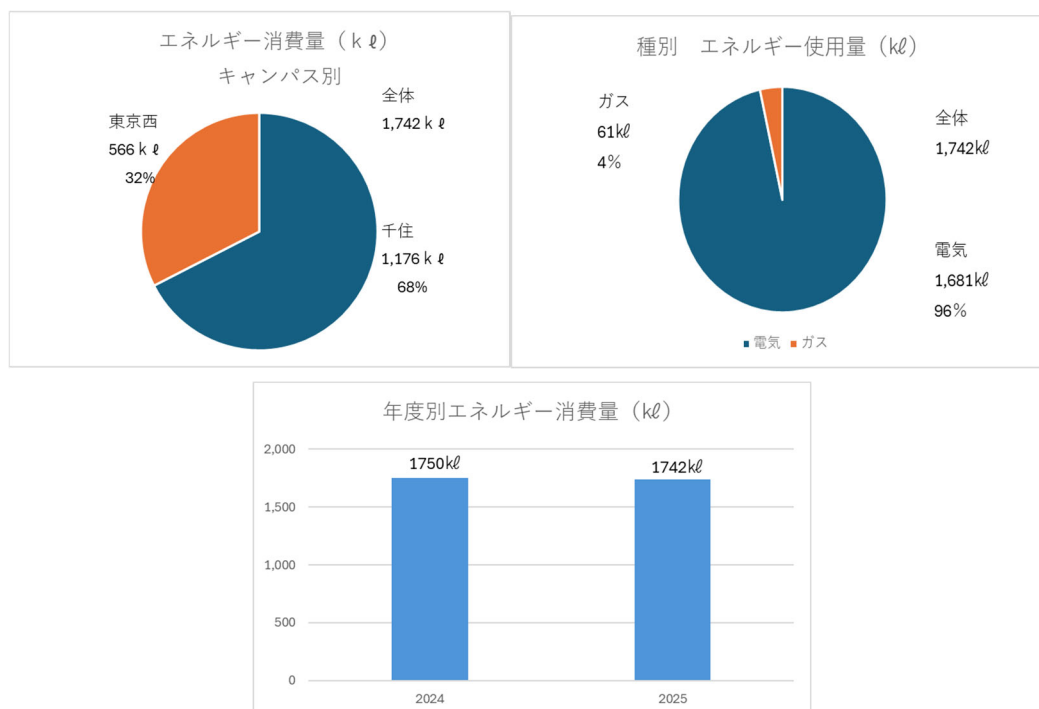
◆環境方針

本学は、「生命・環境」「医療」「教育」の三つをキーワードとして先端科学技術の教育・研究を推進し、21世紀の世界の持続的発展に貢献することを使命としている。環境問題が本学の教育・研究の課題の重要な一つであることから、環境への負荷の少ない、自然と調和したキャンパスの実現に努力すべきことは本学としての当然の責務であるとする。

このため、本学は、全学的に環境マネジメントシステム（EMS）を構築し、全学を挙げた継続的努力によりエコ・キャンパスの実現を期するとともに、以下の活動を通じて、地球環境の保全・改善に貢献することを目指す。

1. 教育活動、啓発活動を通じて地球環境の保全・改善に貢献するとともに、本学の教職員、学生、関係のある業者、その他キャンパス内の全ての者に「環境を守る」という目的意識を持つよう求める。
2. 教育・研究等の諸活動において、環境に関連する法令、学内規則等を順守する。
3. 省資源・省エネルギー、化学物質の安全管理に取組み、環境への負荷を低減するよう努める。
4. 環境目的及び目標を設けてその実現を図り、定期的に見直し環境マネジメントシステムの継続的改善に努める。

◆2025 年度エネルギー消費量（INPUT）



2025 年度は 2024 年度同様に通常のキャンパス運営体制となった。

2025 年度エネルギー消費量は両キャンパス合わせ 1,742 kℓ となり、2024 年度 1,750 kℓ から減少したものの、年間目標である 1%削減は達成できなかった。

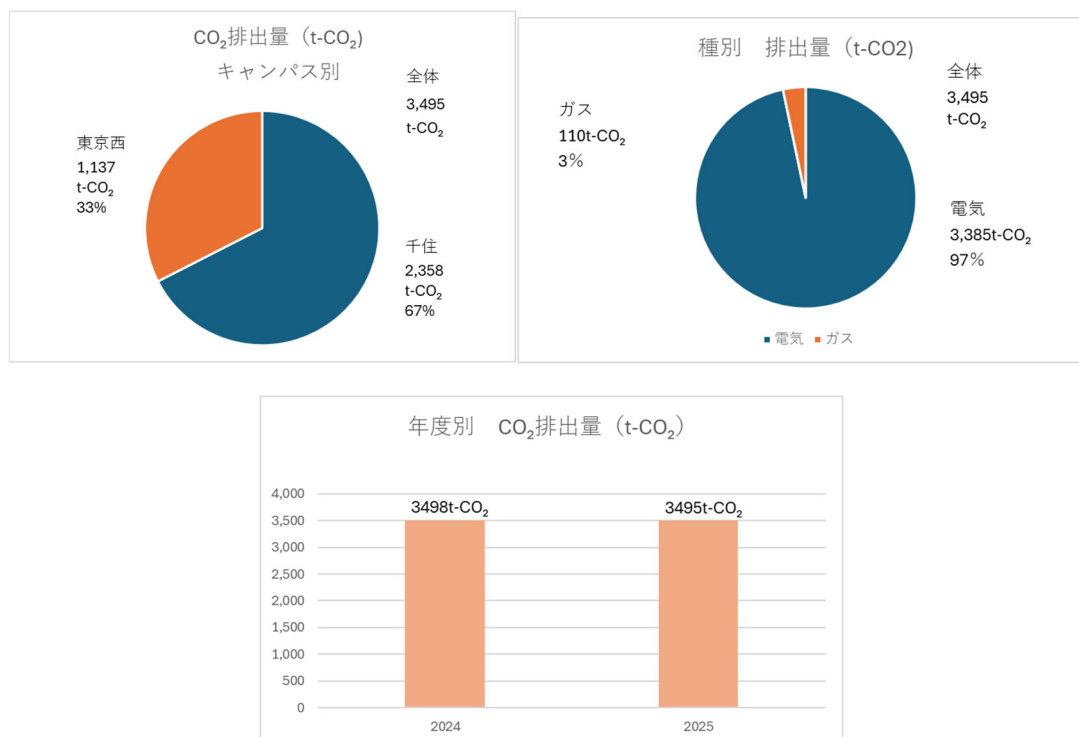
千住キャンパスは酷暑ではあったものの、年間を通して前年同様に安定したことで空調稼働率を抑えられたことで削減につながった。

東京西キャンパスは酷暑・寒波の影響を受け空調稼働が上がり消費量が 2%増加した。

エネルギーの種類別にみると、電気が全体の 96%、残りの 4%をガスが占めている。

キャンパス別に消費量をみると、千住キャンパスが全体の 68%、東京西キャンパスが 32%という内訳となっており、例年ほぼ同じ比率となっている。

◆2025 年度排出量 (OUTPUT)



2025 年度の CO₂ 排出量は 3,495t-CO₂ となり、2024 年度の CO₂ 排出量は 3,498t-CO₂ から削減となったが、エネルギー消費量同様に年間目標の 1%削減は達成できなかった。

2022 年以降のロシア/ウクライナ情勢や中東情勢の不安定化の影響により電力業者において石炭火力発電など CO₂ 排出係数の高い電源への依存が続いている。本学ではエネルギー使用の大部分を電力が占めているため、電力業者の係数悪化の影響を受けている状態である。2024 年度係数 0.000506→2025 年度係数 0.000508 と悪化したため排出量が増加する要因にもなっている。

排出量の種類別にみると、電気が全体の 93%、残りの 7%をガスが占めている。また、キャンパス別にみると、エネルギー使用量同様に千住キャンパスが全体の 67%、東京西キャンパスが 33%という内訳となっている。

◆再生可能エネルギー発電量

本学では、再生可能エネルギーの利用目的で、千住キャンパス 7 号館の屋上に太陽光パネルを設置している。2023 年度は 6.8 万 kw、2024 年度は 6.7 万 kw、2025 年度 6.6 万 kw の発電が行われた。機器類の劣化は進んでいるものの設備員によるこまめな確認作業により故障・エラー等による長期に亘る発電停止は発生せず前年度とほぼ同量の発電量となった。

◆環境教育

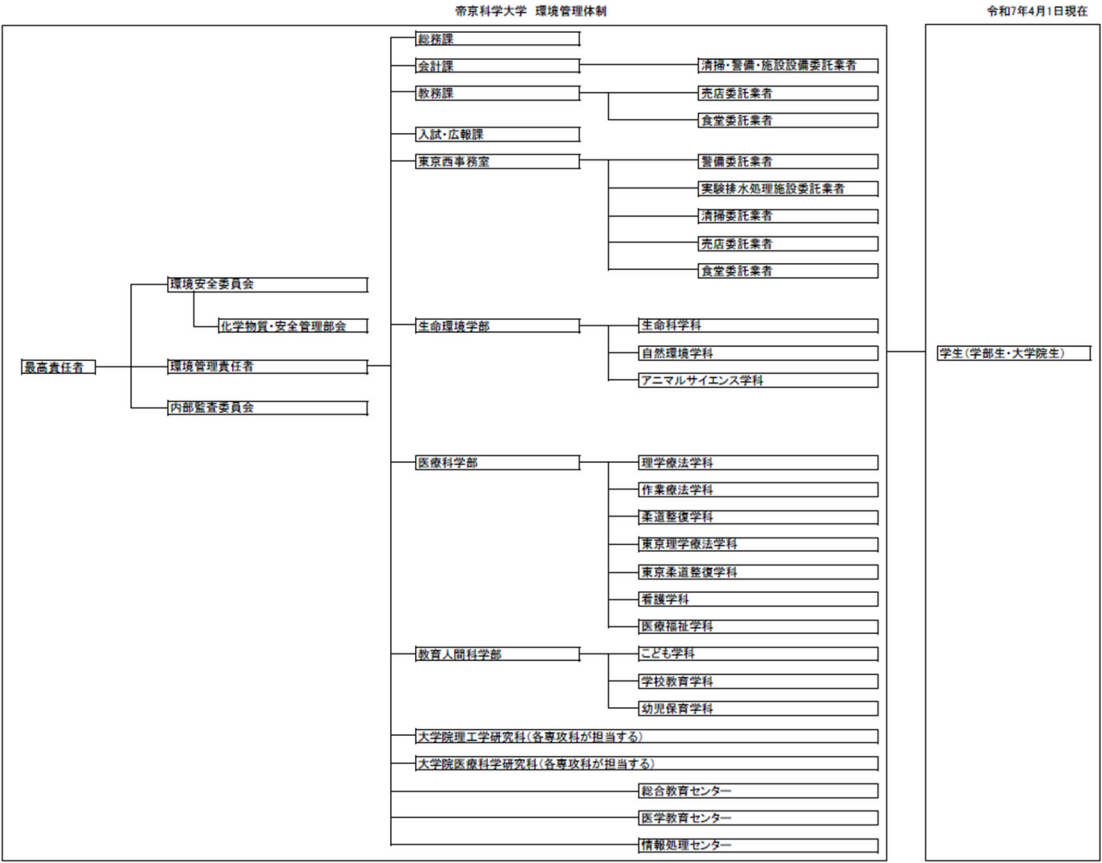
1 年次については、新入生オリエンテーションにおいて初めての環境教育として、本学の EMS 活動の経緯、EMS 活動の内容、EMS 活動の重要性、学生に望むことなどについて講義している。2 年次以降は、各学科のオリエンテーションにおいて、本学の環境方針、目的・目標、EMS 活動の取組みなどについての環境教育を実施している。

【環境アクション5カ条】

1. 不要な照明やOA機器の電源を切ろう
2. 過度な冷暖房を控えよう
3. 節水を心がけよう
4. ゴミの分別廃棄を徹底しよう
5. 駐車時のアイドリングストップを心がけよう



◆内部監査結果の報告



本学では、環境に関連する法令順守状況、化学物質・高圧ガスの保管状況、環境教育及び省資源・省エネルギーの推進状況に関する報告書の提出を各部門に義務付けて、第三者の視点から評価を行う内部監査委員会を設けて評価を行っている。

1. 内部監査実施状況

2025 年度の内部監査が 2 月～3 月に実施され、各部署が本学のマニュアルに沿って活動したことを確認した。

2. 環境に関する法令順守状況

必要とされるすべての部門で適用される法令の洗い出しが行われ、順守されていたことを確認した。

3. 化学物質・高圧ガスの保管状況

化学物質保管調査評価表及び高圧ガス保管調査評価表が、必要とされるすべての部門から提出された。

4. 省資源・省エネルギーの状況

(1) エネルギー消費量について

東京西キャンパスで気候影響による消費量の増加があったものの、全体では削減につながっており、引き続きこまめな節電対応などを実施し、使用量の削減に努める。

(2) CO₂排出量について

消費量同様に東京西での気候影響による増加があったものの、全体では削減ができおり引き続きこまめな対応を行う。

5. 環境教育訓練の実施状況

関係するすべての部署で一般教育が実施されていることを確認した。

◆次年度の目標

2026 年度の目標として、エネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき、本学においてのエネルギー消費量及び CO₂排出量を前年度の目標値から 1%削減をした値を目標とする。前年度の実績値から 1%削減をしたエネルギー消費量 1,725 kℓ、CO₂排出量を 3,460t-CO₂と定めた。引き続き EMS、環境教育の実施により、環境を守る意識を高め、目標達成及び環境保全・改善に努める。